
1993年度 【平成5年度】

■組合員	8万3500人
■供給高	167億4005万円
■出資金	23億4500万円
■職員数	311人

- 4/ 産直豚肉開発委員会発足
 - 4/2 ミュージカル「船乗りクブクブの冒険」上演
 - 4/10 コープ1号店首里まつり
 - 4/11 石垣事業所開設
 - 4/12 運営委員手帳発行
 - 5/27 第18回通常総代会
 - 6/ 「班長会」を「組合員のつどい」に名称・位置づけ変更
 - 6/23 6・23 平和行進実施
 - 7/5 取引業者の会「虹の会」発足
 - 8/6 ヒロシマ行動
 - 8/9 ナガサキ行動
 - 8/9 たすけあい共済元請け申請認可される
 - 8/14 コープかごしま集中豪雨災害支援へ職員4人派遣
 - 10/1 久米島事業所移転オープン
 - 10/21 生協法施行45周年記念厚生大臣表彰受賞
 - 11/5 組合員8万人達成
 - 1/1 シンボルマークを「りんごマーク」へ変更
 - 3/25 ブレンド米反対、セット販売を沖縄米穀協会に認めさせる
-

■取引業者の会「虹の会」発足

県内のメーカー・生産者との連帯・提携をつよめるための取引業者でつくる「コープおきなわ虹の会」が発足しました。



虹の会設立総会の様子

■厚生大臣表彰受賞

コープおきなわのこれまでの活動が高く評価され、消費生活協同組合法（生協法）制定45周年を記念した厚生大臣表彰を受賞することができました。



授賞式の様子。伊志嶺雅子副理事長と上仮屋貞美専務理事。(1993年10月 東京厚生省にて)

■りんごマークへ変更

1994年1月1日より、コープおきなわのシンボルマークを「りんごマーク」に変更しました。



※「りんごマーク」はコープおきなわのシンボルです

りんご : 知恵の象徴

∞無限大 : 無限の可能性

赤色 : 情熱とエネルギー

緑色 : 生命力と自然へのおもいやり

また、りんごマークのデビューにあわせて、コープおきなわとコープ九州の商品は、りんごマークで表示しました。



■米不足

日本中を騒がせたコメ不足、そして1994年3月の米の緊急輸入。消費者の立場を守るため、行政や業者にセット販売の申し入れを行ったり、安全性を確かめるため緊急輸入米の独自検査を行うなど、県内最大の消費者団体として大きな役割を果たしました。



当時、市販では「国産米と輸入米をブレンドした米」が流通していましたが、コープおきなわでは国産米と輸入米をそれぞれ包装してセット販売しました

1994年度 【平成6年度】

■組合員	9万6000人
■供給高	188億2963万円
■出資金	27億2600万円
■職員数	363人

- 4/15 1号店コープ首里オープン
- 4/25 「コープおきなわ商品政策」策定
- 5/16 商品検査室稼働
- 5/25 第19回通常総代会
- 6/ 価格引き下げ「あっふる30」の取組スタート
- 6/27 2号店準備会総会
- 7/25 若竹共同作業所の法人化支援「ダカーポ、ふれあいコンサート」開催
- 7/ 「戦争体験語り伝え合い」活動実行委員会発足
- 8/ アフリカ・ルワンダ難民救援ユニセフ募金
- 10/18 岩手米生産者交流会
- 10/24 税制問題学習会を開催
- 10/28 「くらし助け合いの会」発足総会
- 11/15 全国消費者大会へ2人派遣
- 12/ 研修棟開設
- 1/17 「コープこうべ震災支援活動」に職員を派遣
- 1/19 阪神淡路大震災救援募金開始
- 3月 名護支所開設
- 3月 虹のホームステイ長野編

■1号店コープ首里オープン

コープおきなわの店舗事業がスタートした年となりました。1号店「コープ首里」が4月15日にオープンしました。オープンから1年間の供給高は23億9000万円(当初目標132.8%)と全国的にも高い実績で目標を大きく上回りました。



コープ首里の外観



開店と同時に、ごった返す店内

■商品検査室稼働

商品検査室が5月に稼働しました。検査室の設置は、県内の小売業では最初で、商品の品質管理やメーカーへの指導など、信頼される商品づくりをめざしてきました。



■暮らし助け合いの会発足

組合員どうしの助け合いの活動として「暮らし助け合いの会」が10月に発足しました。援助希望会員7人、活動会員7人、賛助会員53人の会員67人により「会」の運営と活動が取り組みました。



「助け合いの会」準備委員のみなさん

■阪神大震災復興支援

1995年1月の阪神大震災では、被災地に職員を派遣し、店舗の復旧などの支援活動を行いました。組合員の善意により、被災者救援のために2000万円をこえる募金が集まり、子どもたちからは励ましの手紙が寄せられました。

未曾有の震災でコープこうべの建物も大きな被害をうけました



店内を片付け商品を搬出する全国からの支援職員

■名護支所開設

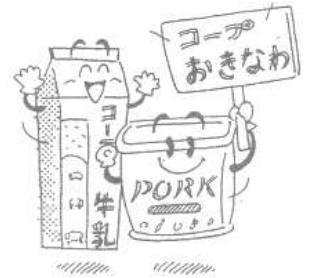
手狭になっていた名護支所が3月中旬に規模を拡大して新しくなりました。2階建てで敷地面積約830坪、建物面積290坪、組合員活動に利用できる多目的ルームもありました。



名護支所の外観

■「コープおきなわの商品政策」策定

組合員の多様な要望に応える商品づくりや品揃えのガイドラインとして、「コープおきなわの商品政策」を策定し、より安心し、安全・低価格の実現に向けて基本的な考え方がまとめられました。



第2期 店舗チャレンジと経営停滞期

(1995年～2011年)

(1) 店舗の連続出店、事業拡大へ

店舗は1995年10月にコープこくば、12月にコープ美里を出店、その後も1996年にコープ山内、1999年にコープ牧港と出店が続きます。2002年12月のコープ寒川、2003年3月のコープあわせ、2003年12月には初の複合施設あっぴるタウンと急速に拡大してきました。

(2) 共同購入事業の利用減少

共同購入は1994年の160億円をピークに毎年供給高が減少しました。仕事などで受取ができず、班利用をやめる組合員も増えました。このため1997年に全国生協に学び「個人配達」を実施し、定時職員を配置。また商品代の口座振替を導入するなど改善にとりくみました。

(3) 大幅な累積赤字へ

共同購入事業の損益改善がすすまず、店舗事業の赤字も続きました。2002年12月からの3店舗出店で投資も増えたため、2003年度は事業損益で8億円の赤字になりました。職員の希望退職を募る「セカンドキャリア支援制度」を導入、正規職員54人が応募・退職しました。このため特別損失を含め11億円の赤字になり、累積赤字8.3億円となりました。

(4) 損益構造改善にむけて

累積赤字という経営状況を受け、常勤役員の体制が変わりました。2004年通常総代会では議案が初めて否決されました。損益構造の改善を図るために職員給与の10%カットや常勤役員報酬の返上なども続けました。2006年にはコープあわせを閉店しました。

(5) 食の安全を揺るがす事件・事故が発生

2007年の「CO・OP牛肉コロッケ」事件、2008年の「CO・OP鳴門産わかめ」の産地偽装、そして「CO・OP手作り餃子(中国製冷凍餃子)」の重大中毒事件などが続けて発生し、生協商品への信頼を大きく揺るがしました。この事件・事故を契機に「食品防御」の視点から、全国の生協とともに品質保証システムを見直し、独自商品を総点検し、組合員向けに食の安全学習会を開催するなど、食に対する信頼回復のための取り組みを行いました。

(6) 理念「私たちのめざすもの」を制定

「中国製冷凍餃子」の重大中毒事件の教訓を受け、2008年通常総代会で新しい理念「ともに創る くらしと未来」を制定し、コープおきなわの「めざす姿」を明らかにしました。あわせて「職員の行動指針」も定め、職員組織風土の改善に取り組みました。

*改定前の理念：「ともに創る くらしと地域」（2002年度第27回通常総代会制定）

(7) 新タイプの店舗で出店再開

ローコストの投資・運営による利益確保をめざして、2010年11月、新しいタイプの店舗としてコープおろくを出店しました。競合が厳しく想定通りの供給高には至りませんでした。地域組合員とともに、地域に根ざした店づくりをすすめてきました。

(8) 地域おこし商品の開発や地域との連携

2007年に読谷村や読谷漁協など、地域との協同で「もずく丼」を開発しました。その後、商品開発を通じて「地域おこし」の取り組みが広がり、商品利用額の一部を地域の子どもたちの支援に活用しました。また、2008年のお年玉募金から、児童福祉に取り組む県内団体を支援する「ボランティア団体助成金」がスタート。地域とのつながりを広めていく取り組みが広がりました。

(9) 組合員の参加を広げるために

組合員活動の基礎であった運営委員会は、1000人以上の運営委員が活動していました。しかし、2006年には共働きなどの理由で参加組合員が200人程に減少。2007年、「組合員（私）の参加を広げる組合員組織政策」を制定し、運営委員会に代わる「コープ会」の設置や、地域別総代会議を年3回にし、方針づくりへの総代の関わりを広げるなど、参加を広げる取り組みを提言、推進しました。

(10) 経営は思うように改善せず

この間、経営改善のための様々な取り組みが実行されましたが、共同購入事業の利用は103億円まで減少し、店舗事業は赤字が続いていました。くらしのサポート事業（共済・生活事業）は取扱い事業・サービスも増え、2009年以降、共済加入では全国1位を連続受賞するなど快挙も達成しました。しかし、全体では減損会計の導入・適用もあり、2011年度の累積赤字は5.5億円となりました。

1995年度 【平成7年度】

■組合員	10万8296人
■供給高	195億7617万円
■出資金	31億3283万円
■職員数	370人

- 4/27 戦後 50 周年平和企画前進座公演「今日われ生きてあり」上演（～28）
- 5/29 第 20 回通常総代会
- 6/1 「有限会社アベニール」を「有限会社あつふるサービス」に名称を変更
- 8/3 虹のホームステイ沖縄編
- 8/6 ナガサキ行動へ 1 人派遣
- 9/2 戦跡・基地めぐりのガイド養成講座開催
- 9/18 米兵による少女暴行事件に対する抗議決議を理事会で採択
- 10/3 組合員 10 万人達成
- 10/21 「米兵による少女暴行事件に抗議する県民総決起大会」へ、組合員・職員が多数参加
- 10/27 2 号店「コープこくば」オープン
- 11/24 岩手産米産地交流集会
- 12/1 熊本産米産地交流集会
- 12/21 3 号店「コープ美里」オープン
- 2/29 コープおきなわ創立 20 周年
- 3/27 虹のホームステイ長野編
- 3/19 注文書のオールメニュー化
組合員の声を「聴く・活かす・返す」活動
LAN システム導入

■組合員 10 万人達成

班登録組合員が8万9614人（前年比102.9%）、班に属さない個人登録組合員が1万8682人（前年比208.7%）となり、合計で10万人を突破しました。

■2号店コープこくば ・3号店コープ美里オープン

2号店「コープこくば」、3号店「コープ美里」のオープンを実現し、店舗事業の供給高は37.3億円（前年比162.8%、予算比92.5%）と伸張してきました。



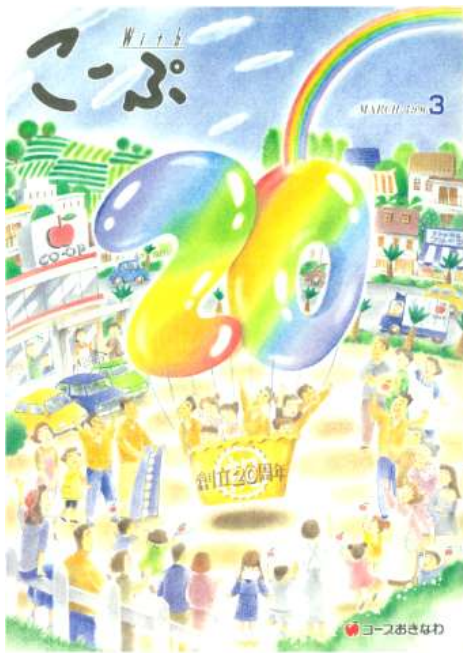
コープこくば



コープ美里

■創立 20 周年

県民のくらしを支えて 20 年。コープおきなわは、いつも組合員とともに歩んできました。安全・安心な商品の開発、文化や平和問題への取り組み、そしてお店づくりなど、さまざまな活動を進めてきました。共同購入は 7 支所（名護支所、具志川支所、北谷支所、浦添支所、那覇支所、西原支所、豊見城支所）、3 事業所（久米島事業所、宮古事業所、石垣事業所）。店舗は 4 店舗（コープ首里、コープこくば、コープ美里、コープ山内）。旅行センターや物流センターもあります。コープおきなわの事業と運動は飛躍的に広がりました。



■注文書のオールメニュー化

カタログ「あっぷる」のページを増やし、組合員からのリクエストによる商品企画の案内や紹介など、見やすく充実した紙面づくりをすすめてきました。また、注文書のオールメニューを実現し、利用しやすい注文方法の改善を進めてきました。

- ①見やすい字体で商品名を表示するため、記入がしやすくなりました。
- ②価格や規格も表示されるため、忙しいときにカタログを見なくても注文ができるようになりました。

1996年度 【平成8年度】

■組合員	11万6335人
■供給高	220億1942万円
■出資金	32億9082万円
■職員数	378人

- 4/1 那覇支所と首里支所が統合され「那覇支所」としてスタート
 - 5/7 「組合員の声」フリーダイヤル、商品ホットライン開始
 - 5/24 「平和ガイドの会」活動スタート
 - 5/27 第21回通常総代会
 - 6/22 環境委員会設置
 - 7/ 共同購入でカタログの回収が始まる
 - 7/13 消費税引き上げ中止を求める街頭署名活動
 - 8/1 労組主催のトラックパレードを実施
 - 8/4 虹のホームステイ沖縄編
 - 8/7 ヒロシマ行動に6人（子ども3人）が参加
 - 8/9 ナガサキ行動に3人が参加
 - 11/11 4号店「コープ山内」オープン
 - 11/28 創立20周年記念誌（With コープ記念号）発行
 - 2/1 コープ山内駐車場に酒店「PX」オープン
 - 2/22 下期組合員のつどい（～3/7）
 - 3/1 「消費税率引き上げに反対する」緊急集会
班カードに「虹のかけはし」欄を設ける
虹のホームステイ長野編
-

■組合員の声フリーダイヤル開始

組合員のご意見やお申し出に素早く対応するため、商品相談室へのフリーダイヤルの設置を進めてきました。

■消費税引き上げ中止を求める 街頭署名活動・トラックパレード

「消費税率の引き上げに反対する」署名活動に取り組み、目標5万人をこえる6万人の署名が集まりました。また共同購入トラックへの「消費税率引き上げ反対」の横断幕設置とトラックパレードを実施し、多くの県民に取り組みをアピールしました。



パレットくもじ前と三越前での署名活動には、多くの方が関心を示しました。

■4号店コープ山内オープン

11月に「コープ山内」をオープンさせることができました。コープ山内では、畜産部門と水産部門の売場配置の入れ替えや、寿司作業場の対面方式への変更など、これまでの経験をいかして、売場やバックヤードの改善をおこないました。



コープ山内の外観

コープ美里とコープ山内のお店づくりでは、これまでのバリアフリー（段差がない）や身体障がい者用の駐車場・トイレ・車いす用スロープなどに加え、点字ブロックを設置しました。このようなお店づくりが評価され、沖縄市から「人にやさしいまちづくり環境整備要綱適合マーク」の認定を受けました。



店内入り口付近には点字ブロックを設置。出入り口は段差のない設計です。

■カタログ回収開始

牛乳パック回収に加えて、毎週組合員に届けている共同溝入カタログの回収にも取り組み、再生紙へのリサイクルを進めました。



昭和製紙工場見学